



# 水族館、動物園で まちを元気に



きむら けんいちろう  
**木村 健一郎**

しゅうなん  
周南市長(山口県)



まつやま まさじ  
**松山 正治**

ふくちやま  
福知山市長(京都府)



いなば しょうきち  
**稲葉 正吉**

がまごおり  
蒲郡市長(愛知県)



さくらだ まこと  
**櫻田 真人**

きたみ  
北見市長(北海道)

司会・コーディネーター

ほそかわ たまお

**細川 珠生**

政治ジャーナリスト

戦後、全国の自治体を中心に設置された水族館・動物園。地域の観光資源、環境教育資源として、大きな役割を果たしてきましたが、近年は、水族館、動物園を取り巻く環境は厳しくなりつつあります。その状況下で経営方式や管理体制の見直し、展示方法の工夫などで、集客につなげる施設も増えてきています。

座談会では、水族館や動物園を地域全体の活性化に結び付けている櫻田・北見市長、稲葉・蒲郡市長、松山・福知山市長、木村・周南市長にご出席いただき、取り組みの内容、集客のポイント、市民の理解の重要性などについてお話しいただきました。

(本文中の役職名・敬称は一部省略しています)

少ない予算だからこそ、  
必死にアイデアを考える。  
逆境を逆手に取る発想で、  
新たな魅力創出に  
つなげました。



櫻田 真人  
北見市長(北海道)

全国の自治体で進む  
水族館・動物園のにぎわい確保策

細川 現在、多くの水族館・動物園が経営上の問題を抱えている中で、いかに入園(館)者を増やし、にぎわいを創出するかが大きな課題となっています。そうした折、水族館・動物園を運営する多くの自治体が参考になっているのが、展示方法の改善で著しい成果を挙げ

た旭山動物園の取り組みです。現在、その成功事例に触発されて、さまざまな活性化策が進められています。

それでは各都市が運営する水族館・動物園の特徴と集客に向けた方策などについてお聞かせください。

櫻田 平成24年7月、北見市では全国でも珍しい淡水魚の水族館「おんねゆ温泉・山の水族館」をリニューアルオープンしました。もともと、昭和52年に旧留辺蘂町が設置した水族館ですが、近年は年間入館者数が2万人を切るまでに低迷。正直、てこ入れは難しいのではと感じたこともありましたが、平成18年の市町村合併に伴う、新市まちづくり計画の一つに「温根湯温泉街再生整備計画」を位置付け、道の駅への「移転改築事業」が進められることになりました。

これが奏功し、リニューアル後は、目標としていた年間入館者数5万人をわずか1カ月で達成、ちょうど2周年で約54万人が来館するなど、市を代表する観光資源にまで成長しています。

その立役者となったのが、サンシャイン水族館などを設計した水族館プロデューサーの中村元さんでした。始まりは職員の発案で、改築する水族館の設計アドバイスをお願いすることにしたものの、予算はたったの2億5000万円。常識外れの低予算でしたから、断られることも覚悟していたのですが、予想に反して「工夫次第で地域観光の中核施設に仕上げられる」と、お引き受けいただきました。

予算が十分でない中で、私たちが中村さんとともに進めたのが、大人が魅力を感じる水族館づくりでした。その観点から「建物よりも、

展示水槽の工夫が大切」との中村さんの考えのもと、滝つぼを下から見上げる構造の「滝つぼ水槽」、野外に流れる川を再現し、冬には水の下で魚が泳いでいる様子が見られる「四季の水槽」、体長1m近い天然イトウが40尾泳ぐ「イトウの大水槽」という3つの特徴的な水槽を設置。これが大きな話題を呼び、入館者増につながりました。

結果的に道の駅の物販はもとより、近隣の飲食店、ホテルや旅館の売り上げ向上につながるなど、温泉街のにぎわいの創出にも結び付きました。

稲葉 海と山に囲まれ、温泉資源にも恵まれた蒲郡市は、年間700万人近くが訪れる、愛知県内屈指の観光地。「竹島水族館」は、そんな蒲郡市を代表する観光拠点「竹島」の目と鼻の先に立地する水族館です。開館は昭和31年、現在の地に建て替えて



れてから数えても50年以上の歴史を積み重ねてきた観光施設ですが、近年は入館者の減少という課題を抱えていました。平成3年の約29万人をピークに入館者数が減少、最盛期の半分程度の約15万人まで落ち込んだ年もあったのです。

そうした中で、大きく変わったの

は若手職員の意識でした。これまでの水族館は「収集・飼育・展示」という役割にひたすら徹してきた感がありましたが、さらに踏み込んで「訪れる方が喜び、感動する水族館を目指そう」と考える職員が出てきました。その結果、お客さま目線に立った水族館づくりが活発に進められるようになりました。

特に機能したのが、来館者の声を聞く「意見ボックス」の設置でした。ここに寄せられた要望に的確に応えることで、お客さまの支持を得るとともに、新しい企画も生まれたのです。

深海生物などを手で触れることができる「さわりんぷーる」や、エサやり体験ができる「パクパクおさかなプール」もその一つ。「魚を直接触ってみたい」「エサやりをしてみたい」という、ある来館者の要望から始まった企画ですが、これが大いに話題を呼んで、新しい水族館ファンを掘り起こしてくれました。今ではすっかり水族館の人気企画として定着しています。

こうした取り組みが来館者の支持を得て、平成23年以降3年連続で20万人をキープするなど、近年は明るい兆しが見えています。今後も、新しい水族館の楽しみ方を模索しながら、ぜひ入館者数29万人を突破し、新記録をつくってほしい。職員にはそうはつばを掛けているところです。

**松山** 福知山市動物園は、約0.5haの敷地の中に小型の獣類・鳥類を飼育・展示する、典型的な地方の小さな動物園です。まちの中心部から北東に約3kmに位置する、地域の総合公園「三段池公園」の一角に立地しています。

もともと、タイワンザルの寄贈をきっかけに昭和26年に開園。当初は福知山ゆかりの智将、

明智光秀を祭る「御霊神社」に飼育施設を設けていましたが、昭和52年に現在の三段池公園に移築しました。

初めのうちはサルやヤギ、鳥類の飼育を中心に細々と運営してきましたが、北近畿および山陰地方で唯一の動物園として、小規模な各園舎を徐々に増設。今では紅色フラミンゴをはじめ

## 職員の意識改革が進み、 お客さま目線に立った 水族館づくりを展開。 それが、集客に結び付きました。



稲葉 正吉  
蒲郡市長(愛知県)

とした鳥類は33種146羽、シロテテナガザルなどの獣類は37種147頭を数えるまでに飼育動物を増やしてきました。

そんなわが動物園が目標とするテーマは「身近な動物との触れ合い」です。蒲郡市と同様に実際に動物に触れ合っていたくことで、「小さいながらも来てよかった」と感じてもらえる動物園を目指しています。

近年のトピックとしては、何と言っても「ウリ坊」と「みわちゃん」です。イノシシの「ウリ坊」の背中に小ザルの「みわちゃん」が乗る微笑ましい姿が全国から注目を集めた結果、平成22年度の入場者は約19万人と過去最高を記録。ただ、その後が続かず、昨年度は約6万4500人にまで減少してしまいました。

その中で、現在期待を掛けているのが、今年福井県鯖江市の西山動物園から借り受けたレッサーパンダです。既に冷暖房付きの専用飼育舎も整備、これに伴い、動物園自体もこれまでの2倍の1haまで拡張する計画を立てるなど、市としても大いに力を入れているところですから、ぜひ子どもたちに癒やしを与える、人気者になってほしいと考えています。

**木村** 周南市徳山動物園は昭和35年、中国地方としては岡山市の池田動物園に次いで2番目に開園した動物園です。徳山藩主毛利氏の屋敷があった区域に設置され、面積は5ha。まちなかのコンパクトな動物園として親しまれています。

開園当初は約25万人だった入館者数は、昭和53年に40万人超えを果たしたものの、それをピークに平成16年には22万人強まで減少。ところが、近年はコンスタントに30万人を記録する

など、入館者数は回復してきました。

その要因の一つに挙げられるのが蒲郡市同様、若手職員の熱心な取り組みです。動物の生態を分かりやすく紹介する看板を自ら制作するほか、園内にある展示館を舞台に、若手職員ならではの発想を生かした各種企画展も随時開催。開園40周年の平成12年からスタートした「夏の夜間開園」も人気で、恒例行事となっています。私も職員が進める、こうした主体的な取り組みが成果を挙げていることに、手応えを感じています。

さらに、市長としてうれしいのは、この動物園自体が、市民から大きな支持を受けていることです。元来、童謡「ぞうさん」の作者、まど・みちおさんが周南市出身ということにもちなんで、長年、徳山動物園では象を飼育してきましたが、残念ながら、一昨年の2月、急死してしまいました。すると、すぐに市民による募金運動が幅広く展開されたのです。その思いが通じたのか、スリランカからオスマスそれぞれ1頭ずつの小象を寄贈いただき、昨年の9月に一般公開したところ、これがまた人気を集めています。

現在、動物園では平成35年をめどに、全面的にリニューアルを展開中です。文化会館なども集積する市の文化ゾーンにある立地条件も生かして、これまで以上に、動物園をまちづくりの大きな核に育てていきたいと思っています。

### 職員の主体的な取り組みが施設の魅力を生む

**細川** いずれも地域の身近な水族館・動物園を活性化しようと、さまざまな取り組みを進めて

動物園を核として、いかに人と人、あるいは自治体同士の交流を深め、地域活性化につなげられるか。そこがポイントです。



松山 正治  
福知山市長(京都府)

いらっしゃいますね。特にお話をお聞きして印象的だったのが、職員の方々のご努力。高いモチベーションをもって、主体的に活動されていることが大きな成果につながっているように感じました。

**櫻田** わが水族館においても、若手職員の活躍は活性化の大きな要素になりました。そもそも中村さんにアドバイスをお願いすることを考え出したのも若手職員でしたし、改築に当たって

は、職員自らが水槽の石積み作業に従事してくれました。職員数は5名しかいませんが、少ない人数で最高のパフォーマンスを発揮しています。

**木村** 若手職員の発想は、とてもユニークで、われわれには考え付かない企画も考え出します。今年の夏には、ちょっと気持ちが悪いとされる動物たち(キモアニ)を、飼育員の解説付きでじっくり観察できる「続ぞくぞく! ふしぎ動物キモだめし」というイベントを行うことにしており、私も期待しています。

**松山** 努力しているのは必ずしも若手職員ばかりではありません。わが動物園は飼育係が5名、受付担当が日替わりで2名という体制ですが、活性化に最も貢献しているのは、一番の長老の名物園長さんです。企画やエサやりの装置も自ら考案されますし、来場者とも頻りにコミュニケーションをとって、動物との付き合い方、触れ合い方を積極的に伝えられている。園長の話を聞きたくて、再度動物園に訪れるリピーターも少なくない聞いています。

**稲葉** 職員の努力もさることながら、市民の協力もこうした施設の振興のためには欠かせません。竹島水族館では深海の珍しい生き物の展示も行っているのですが、それを提供してくれるのが漁港の方々です。こちらからお願いしているわけではないのに、三河湾で行われる深海底引き漁で、珍しい魚が取れると水族館に持ってきてくれます。これが来館者に非常に好評です。

**木村** 徳山動物園では平成16年に「周南ふれんZOO」というボランティア組織が結成されました。現在、高校生からシルバー世代までの老若男女約40名が、動物園の特性を生かした工作



木村 健一郎  
周南市長(山口県)

公立の動物園は  
営利事業ではありません。  
自治体としてはある種の志、  
哲学を持って  
運営することも重要です。

教室をはじめとしたイベントやえさやり体験の支援、看板づくり、ブログからの情報発信などを担ってくれています。

**櫻田** 山の水族館でも、施設周りの草木の植栽は園芸ボランティアの方々が担ってくれましたし、水槽に入れる樹木も造林業者から提供を受けることができました。低予算でリニューアルオープンにこぎつけたことができたのは、こう

した協力者の存在があったからこそでした。

**松山** 私たちの動物園でも、日常的に八百屋さんなどから、みかんやキャベツなど、売れ残った食材を、動物のエサとして提供いただいています。口では言わずとも、地域の動物園を自分たちで育てよう、手助けしてあげようという気持ちで多くの市民が持ってくださっているということでしょう。市民の理解・協力は、動物園を運営する上で重要な要素です。

**木村** 同感です。わが動物園でも、市内のお好み焼き屋さんがキャベツを提供してくださったりしていますし、逆に動物のフンを、地域の農家に肥料として使っていただいています。

**稲葉** もう一つ大事なのは、首長自身の意識ではないでしょうか。実は私自身、水族館が大好きなんです。今、竹島水族館では国内13種類のメダカを集めた企画展「大集合!! 日本のメダカ」を開催しているのですが、これを企画したのは私です。先日、メダカが趣味の木村市長と会議でご一緒した折にお話をしている中で刺激を受けて、開催にこぎ着けました。

**木村** それはすごい行動力。ぜひ私も伺いたいですね!

### マイナスをプラスに変えられるか

**細川** 水族館や動物園などを運営するためには多くの費用を要します。経営という観点から気をつけられていることなど、市長としてのお考えをお聞かせください。

**稲葉** 正直、頭が痛い問題です。竹島水族館は建設から半世紀以上が経過し、老朽化が激しいものの、なかなかリニューアルは困難な状況です。というのも、今や昭和30年代から50年代

までにつくられたさまざまな公共施設の建て替え、見直しの時期を迎えています。特に蒲郡市では図書館、市民会館、体育館の建て替えが迫っていて、水族館にまで手が回らないのが実情です。

**櫻田** お金がないという点では北見市も負けていません。しかし、少ない予算だからこそ、職員が必死に善後策を考えるようになるのも事実です。特に、私たちが大事にしたのは、逆境を逆手に取って効果的な取り組みにつなげること。その一つが、展示方法の工夫でした。

以前は冬になると館自体を閉館していましたが、水面が凍っても、魚たちは泳いでいる。逆にその様子を見せればいいじゃないかと発想を変えて、「四季の水槽」を考え付いたんです。

**稲葉** マイナスをプラスに変えるということですが。確かに竹島水族館も規模が小さいというの



は弱点であるものの、だからこそ歩み疲れないし、子どもも迷子にならないというプラスの効果もある。私の家内も、頻繁に孫を連れて訪れています。地方の小さな水族館なりの親しみやすさを上手に生かして、そのメリットを効果的に伝えていくことも必要です。

**木村** 今や展示方



細川珠生  
政治ジャーナリスト

法も進化しています。当初は動物の姿や形を見せる見世物的な「形態展示」が一般的だった展示方法も、旭山動物園の成功を機に「行動展示」が主流になってきています。当園では、そこから一歩進んで「三次元展示」を検討していますが、いずれにせよ、お金を掛けずに、展示方法を進化させて、来場者に感動を与えたい、そして、動物にまつわるドラマを市民と共有したい、ぜひその勉強のためにも、山の水族館の展示方法を職員に視察させたいです。

**松山** 福知山市動物園でも、レッサーパンダを導入するに当たっては、繁殖数で国内有数を誇る鯖江市西山動物園で研修を受けさせたのですが、非常に効果がありました。また、経営という面であれば、やはり入場者数の増加を目指しています。「ウリ坊」と「みわちゃん」が人気を博したように、レッサーパンダで来場者を増やせればと考えています。

**木村** その一方で、公立の水族館や動物園は営利事業でないことも認識する必要があります。一般財源からの持ち出しは避けられませんが、その意味でもある種の志、哲学を持って運営することも重要になってくると思います。

## 水族館・動物園の振興を 地域活性化に結び付ける

**細川** 水族館・動物園の活性化を、いかに観光振興や地域経済の活性化に結び付けているかという点も重要です。最後にこの点についてご意見をお聞かせください。

**櫻田** 山の水族館が人気になり、温泉街のにぎわいにもつなげることができたわけですが、今後は広大な市全体の活性化にも取り組んでいきたい。オホーツク海沿岸の旧常呂町には通年型のアドヴィックス常呂カーリングホールもありますし、そうしたほかの観光資源とも連携し、交流人口の拡大につなげられればと考えています。

**木村** おっしゃる通り、今は定住人口だけではなく、交流人口の拡大を図らなければいけない時代です。ぜひ動物園を観光資源の核に位置付け、周囲の施設とも連携しながら、市を訪れる人を増やしたいと思います。さらに、周南市では県内のほかの教育施設と連携してスタンプラリーの実施や、独自の割引制度を設けるなどしています。こうした自治体同士のつながりも有効です。

**稲葉** 私もそう思います。蒲郡市でも東三河地域の各市町村と連携して、各公共施設を無料で利用できる「ほの国こどもパスポート」を地域内の小中学生に配布しています。

**松山** 動物園を核にして、いかに人と人、あるいは自治体同士が交流を深めていけるか、そこがポイントでしょう。そうした交流が産業や観光面の振興にもつながっていくことを期待しています。せっかくですから、本日の座談会を機に、ぜひ皆さんの都市とも交流していきたいです。

**細川** 水族館や動物園は市民にとって身近な教育施設です。レクリエーションの場でもありませんし、環境教育の場としても欠かせません。本日の座談会では、多様な地域資源である水族館・動物園の活性化策について、さまざまな実践事例やヒントが出されました。特に、職員の努力や市民の理解、協力の重要性については、多くの自治体が参考にすべき事柄ではないかと思えます。

今後とも関係者や市民と力を合わせ、水族館・動物園をまちづくりの核として、地域活性化につなげていただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

(平成26年7月8日、日本都市センター会館にて開催)  
本コーナーは隔月掲載となります。次回は11月号に掲載予定です。



